

二〇二五年四月二日

青空と会話してをるいぬふぐり  
春泥を跳ね上げ帰るランドセル  
駅降りて落花の回り道えらぶ  
春愁ふ寡婦となりたる友のこと  
バス発車するたびに舞ふ落花かな

二〇二五年四月一日

登校の列乱れなき新学期  
いとこ会それぞれ郷の花自慢  
東西のキャンパスつなぐ花の道  
目白憎し無傷の花を嘴小突く  
落下屑トートバッグに二三片

二〇二五年四月九日

忌を修し終へて安堵や花は葉に  
花吹雪浴びつぼんぼり撤去かな  
若き等の行き交ふキャンパス水温む  
キャンパスの門扉開放花見時  
学食へ紛れ込んだる花の昼

二〇二五年四月八日

掌にとどまらずして桜散る  
春光にかざして通す針の糸  
しがらみに大渋滞す花筏

明日香

みきお

うつぎ

わかば

康子

せいじ

うつぎ

康子

明日香

むべ

やよい

なつき

こすもす

康子

うつぎ

澄子

千鶴

むべ

花の雲ニタ分けしたる大路かな

花筵湖見ゆここが一等地

我が頬にキッスして散る桜かな

二〇二五年四月七日

大好きとありし砂文字浜おぼろ

二〇二五年四月六日

愛犬が水先案内春の土手

しろしろと綴る湖畔の朝桜

翠黛に散りばむ白は山桜

二〇二五年四月五日

昼間より優る人出や夕桜

落ちあふも離るるもあり花筏

澄子

よし女

明日香

なつき

和繁

よし女

あひる

なつき

むべ

毎日句会みのる選・二〇二五年四月一三日